第415号

主な記事

- 地震災害のお見舞い 現地視察
- 2面 現地視察
- 3面 現地視察、震災現地支援感想
- 東日本大震災救援活動報告 理事会だより



行 所 岩手県保険医協会

₹020-0034 盛岡市盛岡駅前通15-19 TEL 019-651-7341(代) FAX 019-651-7374 発行人 箱 石 勝 http://www.i-hoken-i.org 購読料 年2,400円(〒別) 会員の購読料は会費に含まれています。

方々に対しまして

心よりお見舞

(1)

<

なられた方

Þ

0)

ت

冥福をお祈り申し上げますととも

に、

被災

された皆さま、

そのご家族

0)

岩手県保

険医協会

役員

事務局

同

いを申

申し上げます

の度の東日本大震災により、

謹んで地震災害のおる

山田町の状況

舞金を受け取る箱石会長 kebを受け取る箱石会長(左) に江保団連会長(右)から見

薬品を届ける宮古病院菅野院長

右

壊滅状態となった町もありま フラインが寸断されました。 名かわからない町もありま 方不明の方、 ないほどの津波が押し寄せ、 さらに、沿岸ではこれまでに した。多くの犠牲者と未だ行 を感じ、停電や断水等、ライ チュード9・0の地震が起き |陸沖を震源とするマグニ 盛岡でも大きな揺れ 行方不明者が何

災された皆さまに心よりお見 もに、ご冥福をお祈りし、 れている方がおられます。 族・スタッフさんの中にもお 亡くなりになった方や被災さ んでお悔やみ申し上げるとと 当協会の会員の先生・ご家 謹

したら、保険医協会までご連 お困りのことがございま

月11日午後2時 3月14日

せていただき、多くの先生か 願い」の文書をFAX送信さ 地域には届かなかったことと た。14日時点で電気が通って 協力ありがとうございまし らご回答いただきました。ご お見舞い並びに情報提供のお いない医療機関や被災された

内陸も被害あ 情報提供ありがとうございまし

会員に対して、 当協会の開業医 一震災被害の

ご回答いただいた医療機関

あらゆ る医薬品が不足

いる。 とあらゆる ましたが、 供頂いた歯ブラシについても らう」とおっしゃっておりま いた医薬品等携え、会員でも した。併せて当会役員から提 が改善されず、とにかくあり 院長に届け ある県立宮 局台に位置するため難を逃れ 保団連先 有り りました。同病院は、 百古病院の菅野千治 難く使用させても 医薬品が不足して 菅野先生は「物流 遺隊の方々から頂

ことが改めてわかりました。 今回の震

市街地は焼け野原

ような状況でした。全壊して り)を境に天国と地獄という もしれませ 地は、言

こんが、ある地域(通

位置する山田町に行きまし その後、宮古市の南部に (2面へつづく)

保団連会長が医薬品 見舞金届け る

岩手県にむけ東北道を200 る保団連支援の先遣隊4人 会長を先頭に、東日本大震災 の罹災協会を激励訪問してい 3月17日 宮城から陸路猛吹雪の中、 住江憲勇保団連

日経ったが、未だ会員の安否

報道されて

箱石勝見会長は

|被災後7

キロ北上。当協会に支援物資 と見舞金を届けてくださいま 医医 SAJKU を確認できない。 確認に全力を挙げている。 員も一部いるが、依然安否の 状を訴えました。 院や医療機器の損壊状況も集 所などで生存が確認できた会 に全力を挙げている。」 沿岸部では全く復旧していな はほぼ全滅ではないか。 沿岸部の会員医療機関や自宅 の市街地は壊滅状態にある /リンも無いので行けない 30人が沿岸部、 1000人の会員のうち 県内を移動したくてもガ 電話などの通信手段も 陸前高田

おっしゃっ

療機関を訪

問しました。市街 方に語弊があるか

その後、

宮古市街の会員医 ておりました。

力を。保団連と協会は被災会 一まずは会員安否確認に全

かった方とおりましたが、お

会いできた方には、箱石会長

は、会えた

た方と不在で会えな

いる区域

の会員の先生方と

足していた。ありがたい」と 口腔ケア で必要だったが不

災が、地震ではなく津波によ 目立つものはなく、 路には崖崩れや亀裂など特に る被害が甚大であったという 盛岡から宮古にかけての道 復旧作業に懸命に取り組んで

おられました。

たい」と、スタッフさん含め、

けでも出してあげるようにし 状況ではないが、せめて薬だ

たい。落ち込まずに再開させ

税務調査、個別指導、保健所の立入検査の連絡があった際は、お早めに協会にご相談ください。(TEL019-651-7341)

が、診てくれないかと訪問し 事だった。震災後も地域の方 が2階に避難してなんとか無

てくる。通常の診療ができる

話を伺うことができました。 生ご本人も医院におられ、お

「医院は1階部分が流された

た

えたい」

と、住江会長は被災

とを被災会員に一刻も早く伝

する決意を表明しました。

した東北各協会を全力で支援

員とともに

にある、寄り添うこ

係や職員の通勤などに支障 の被害の大小は様々でした 点では診療を行っておられま が出ている声が多数ありまし ガソリン不足の影響で機器関 した。しかし、停電や断水、 多くの医療機関で14日時

きました。

ある宮古市と山田町に行って 局2名の計3名で、被災地で

3 月 19 日 、

箱石会長と事務

がお見舞いと激励を行いまし

宮古・

出

でもある木澤先生の医院があ 域に、宮古市医師会長で会員 に少し外れた津軽石という地

また、市街地から海岸沿い

り、そちらを訪ねました。先

不休の医療活動と、被災住民のために不眠

現地の様子を伺うことができ

地震については、数年前の

津波

かいました。そこで、後藤先

の消防団が「後藤先生の医院 れると思った。しかし、地元

生にお会いすることができ、

南小学校で診療しているとの

した大規模火災には巻き込ま

ことでしたので、

そちらに向

後藤尚先生の診療所を訪問し

山田町で唯一被災を免れた

たところ、

避難所である山田

で無事だったが、

その後発生

に関してはギリギリのところ 宮城沖地震の方が強く、

数の方が多いように感じるほ 作業に従事されている方々の 民の姿よりも、 見してわからない状況で、 医療機関の看板や所在地も一 焼け野原になっており、 取り組んでいる様子でした 街の方々も懸命な復旧作業に の処置がとられておりました 岸沿いの道路は一部崩落して ちろんのこと、その後大規模 どでした。 できるものが多くあり、 聞きしていたところです。海 な火災が発生したと報道で見 た。ここは、津波の被害はも した1階部分が壊滅していて 山田町は、 まだ、建物としては確認 町内に入ることはできま 宮古市内は津波が侵入 片側通行や迂回路など 市街地が一面 自衛隊の捜索





マース周辺

浜風で土埃と瓦礫が飛び交

被災された方が復旧作業

ができません。さらに、強い

言葉で表すこと

口というか表現できない臭 被災地域には潮というかへ

2階も壊れ、鉄筋が見える

が無くなれば、町内の医療機 である小学校の保健室を臨時 震災後は自院ではなく避難所 してくれたのこと。先生は、 りにして、 で守る」と、消防車を盾代わ 関が全滅してしまうから全力 必死の消火活動を

> 診療所とし、 の情報を知ったのは5日経っ ンが断絶していたため、 休で診療を続け、ライフライ た後だったそうです。 3日3晚不眠不

> > 要な患者への対応も限界があ

については、

県立山田病院も

在は、 ているとのことでした。 タッフなどが応援に来てくれ が応援に駆けつけてくれ、現 は全壊したが無事だった医師 その後、町内の医師で医院 国立病院の医師やス

場所足りのは医薬品と

利用しているが、限界が近づ

小中学校の体育館などを

遺体安置所の場所もなく、現

建物が倒壊焼失したために、

どの一刻も早い対応をお願い いてきている。燃料の確保な

したいとのことでした。

地元の青年が、 ついては、小学校の教室を病 ている。しかし、透析患者に 洗って分別し、なんとかやっ けて使えそうな薬を持ってき とのことでした。また、場所 持ちのものでは限界があるの 室として対応しているが、手 力しながら、貴重な飲料水で てくれ、応援の薬剤師等と協 ながら、必死で泥水をかきわ かく医薬品と場所。 現在足りないものは、 各方面に働きかけている 余震の恐怖に耐え 倒壊した調剤 医薬品は、

> した。また、岩手県内の沿岸 をするにも危険が伴うもので

付近の道路が一部封鎖されて

いられている状況です。

時間的に大きなロスを強

山田町の石材店周辺

市内道路をふさぐ船

道路沿いは瓦礫の山

りお祈り申し上げますととも になった方々のご冥福を心よ 内でも陸前高田や山田は津 観測し、東北地方を中心に甚 害に遭いました。お亡くなり のほとんどの地域が津波の被 波・火災で壊滅状態、沿岸部 大な被害が出ています。 に心よりお見舞い申し上げま に、被災された方々・ご家族 宮城県北部では最大震度7を の巨大地震が発生しました 三陸沖を震源とするM9・0 3月11日午後2時46分頃

薬品等の支援物資を県立宮古 会長の住江憲勇先生からの医 田・大船渡・陸前高田・大槌 けました(詳細は事務局報告 に入りました。19日は保団連 病院院長の菅野千治先生に届 3月19日~21日、宮古・山

が、今回は無事だった旧県立 いうことで廃院となっている

山田病院も利用できるよう働

また、主要な

に掲載)。 20日には

現

地 を

視

察

7

岩手県保険医協会

会長

石

勝

見

礫はきれいな瓦礫で、今回の

津波の被害とは異なるもので

ものですが、状態は同じで した。震災は戦争と異にする

す。弱者が悲惨な目に遭いま

が落とされた1カ月後、広島

るのです。私は、広島に原爆

を歩きましたが、その時の瓦

うで、生きているにおいがす

るものの、 警官に他の地域の状況を聞い 応援に来た しており、 いる人は少なく、ただ茫然と 礫も何もありません。歩いて の状態。高 市内には入ることができませ すが、通行止めとなっており、 を得ることはできませんでし わからないとのことで、情報 ても、現地の者ではないから ちました。 た。釜石に た。市街地は全く何もない0 八で、自衛隊員や 行きたかったので 警察も北海道から 自衛隊の姿が目立 津波で流されて瓦 台に家が残ってい

と異なり、

大槌に向かいまし

方なく、一心同体となって助 す。被災者の方々は今、敵味

け合いながらこの困難を乗り

んでした。

大槌では こンと感じられまし '魂が動いているよ 瓦礫の中でも人の テレビで見るの

していきたいと思います。

宮 古

3月23日、事務局3名で宮

ぐちゃぐちゃでした。2階か ら上は建物としてしっか がすぐに感じられました。市 状態でのりあげているものな みられ、逆さまになっている も走っている印象を受けまし 全て割れ、中も津波で流され 役所の1階部分は窓ガラスが もの、家の屋根にそのままの 船が堤防を越えて市内に数隻 た。国道106号を市役所に ました。市内は車が盛岡より 古市内の会員医療機関を訪れ えると風景が一変しました。 向かって車で走り、 普通の状態ではないこと 陸橋を越

> ら海側の 残ってはい き、通りに たであろう 子はわかりません。市役所か ら中にあり、 子でした。 - 階は崩れ、 診療再開 いるものの、中の様 **通路の横にはよけ** 面した家や建物の 瓦礫がずらっと続 見るも無残な様 瓦礫の山がそこ

開できない医院

ことにし、 した。医院の前には、津波で 測される合 始めに、 使えなくなった物が に置かれていまし 台員医療機関を回る 被害が大きいと予 A歯科を訪問しま

> 流され、とても暮らせる状態 た。医院は休診中で、奥のご ではありませんでした。 が入った跡がわかるほど物が 自宅へ伺うと、1階部分は水

らかかるか検討もつかないと 丈な造りのお陰で床に泥が入 ているところで、診療所は頑 は無事だったが、修理にいく いるだろう。幸い、スタッフ イラーもきっとだめになって は無理だろう。業者に頼んで たので、電気が通っても診療 ンセントは全て床下にしてい く見通しがたっていない。ボ いるが、いつ工事できるか全 る程度で済んだが、配線・コ 先生はご自宅の片づけをし

できることを常に考え、行動 りお祈り申し上げ、一刻も早 もおられます。ご冥福を心よ す。中にはご家族を亡くされ 命に診療を続けておられま 者が、日夜問わず、必死に懸 越えようとしています。被災 おっしゃっておられました。 でもお亡くなりになられた方 ことと思います。会員の先生 地域では被災者でもある医療 い復興を切に願い、私たちが わからない方も多数おられる た方、未だ行方不明で安否が (3面へつづく) 保団連メールマガジン購読者募集中! 詳しくは保険医協会までお問い合わせ下さい。(TEL 019-651-7341)

縦貫道を迂回したため鵜住居 道45号線が通行止めで、三陸

「釜石市内医療機関状況」一

況でした。 裏手で開業されて が医薬品は確保できている状

覧をもらいました。釜石・大

を訪れました。両石地区の国

はじめに釜石保健所へ向か

の尽力により、十分ではない

る模様と思われます。

Cクリニックでは事務長と

看護師と面会すること

ができました。

建物は

が続いているため休診してい 紙がありました。 周辺の停電

した。薬剤師会や薬剤卸業者

担当者の鈴木宏俊氏より

事務局2名で釜石市と大槌町

3月24日、坂正毅副会長と

地区へは立ち入りできません

廃業した医院を借りて、残っ ができました。医院が流され、 は院長先生とお会いすること

た器材で診療を再開していま

しばらくの間休診」の張り

B歯科医院は不在で入口に

視

察

釜石

大槌

クの寺田先生を窓口として集

は、釜石ファミリークリニッ 槌方面への医療支援について

約し派遣しているとの話を伺

8

津波で流され壊れた救急車

奮闘されている先生がいらっ

しゃるので、釜石市はもちろ

んだが時間があれば大槌まで

いました。大槌では避難所で

行って欲しいとの要望が寄せ

られました。

未だ行方不明の先生も

釜石市内のAクリニックで

話では自宅は無事、 でしたが、近所の方の でした。日歯科は不在

携帯電話へ連絡したところ、

がつかめなかったため先生の

Bクリニックの先生の所在

盛岡グランドホテルに避難

F医院、G歯科も同様

はほぼ全壊、

同じ町の

のことでした。

D医院は不在で建物

りの診療ができそうと が、4月からは平常通

先生はまだ電気が通っていな の家にいらっしゃるというこ いということで、お知り合い とでした。 次に、近くのB内科を訪れ (2面からつづく)

いるとのことで、医院は床上 行って不在とのことでした。 んできてくれました。その方 ました。既にお昼の12時を過 は先生の息子さんと思われる と、近くにいた女性が人を呼 今は、薬のみの処方をして した。ご自宅を探している 先生は医師会の会議に 医院は閉まってい

域に向かいました。 ました。また地震が来たら、 すっかり見えている家もあり 分持っていかれて部屋の中が 瓦礫と化し、2階部分が半 態ではなく、 周りの住宅はとても住める状 いつ崩れるのか怖いくらいで 1階は津波で C歯科の

できると思うが、今は点滴も

消毒をしたら点滴等も

採血も必要な患者さんしかし

聞

もない、家屋倒壊が著しい地

その後、海に近く、防波堤

C歯科の入り口もガラスが

1階の窓からベッドの

と思うとのことでした。 はなく、来週から診療できる ていない。でもそれほど被害

とでした。

たが、電気が通っていないの ためユニットは浸水しなかっ 壊状態で診療室が2階だった しゃるとのことでしたが、半 で使えるかわからないとのこ

水の入った跡がありありと見 3階で現在、暮らしていらっ 足が出ていました。中も、 てとれました。先生は医院の また、すぐ近くのD歯科は 海 今にも崩れそうな家



た。

た。

しゃいました。

院はほぼ全壊とのことでし

いた先生ご夫婦は今も安否が

ている地元の先生医療班として活動され 大槌の市街地は壊滅状態で

季の郷」にて医療活動をされ は全壊)、障害者支援施設「四 場脇の避難所にて医療班とし 科は医院が流されてしまった て活動されている先生 い合わせたところ、町営野球 受付にて医師の診療状況を問 健所で聞いた避難所を訪問し おられました。しかし、 ている先生(医院は全壊)が ました。岩手県立大槌高校の 両通行止めのため、 釜石保 (医院

部制限を設けている ま。今は投薬などに一 水道は未だ止まったま 無事だが電気・ガス・

地震や津波でのケガなども労災補償の 対象となります

今般発生した地震に関連して、労災保険について厚生労 働省より「東北地方太平洋沖地震と労災保険 Q & A」が事 務連絡されました。

労災認定の考え方は、仕事中に地震や津波により建物が 倒壊したこと等が原因で被災した場合は作業方法や作業環 事業場施設の状況などの危険環境下の業務に伴う危険 が現実化したものとして、労災補償の対象となるという見 解です。

いまして仕事中(休憩中で事業場の管理する施設に る場合を含む)や避難途中に地震や津波に遭い、ケガをさ れた(死亡された)場合には「業務災害」として労災保険 給付を受けることができます。今回の震災では労災請求手 続きに弾力的な運用をしていますので、労災で受診したい 旨を医療機関にお申し出下さい。

また、行方不明の方については、警察の調査により死亡 が判明した場合、あるいは、民法の規定により行方不明と なった時から一年後に死亡と見なされた場合、労災保険の 遺族補償給付の請求ができます。なお、今回の震災におい ては特例的に一年よりも短い期間で労災認定ができるよう 検討中とのことです。詳しくは下記 URL をご参照いただ くとともに最寄りの労働基準監督署までお問い合わせ下さ い。

http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000169r3.html

滞在されて無事とのことでし しいとおっしゃっていらっ できる限り力になって欲 通れば何とか ないとお なるかもしれ いうことでし わからないと しゃっておら 電気が (事務局

れました。

至るところに流された車が… (坂副会長(右))

診療している会員の医

いるにもかかわらず、

自分の家が被災して

するには、 月と巨額の費用がかか 日々が続くことを実 るであろう。 難所で診療に当たって とっても長 いる医師や看護師たち に頭が下がった。 消えかけた街を復興 会えなかったが避 長い長 い支 私たちに 援 い年

災現地支援感

想

てしまった。車も使えず、再 浸水し、カルテも駄目になっ

りは瓦礫の山で、

大きい道路

で中に入れず、

先生も茫然と

向かいました。診療所は瓦礫

瓦礫の上を歩きながら医院に

院名が確認できたものの、周

E歯科は、道路沿いから医

ユニット、パソコン類が全て

開のめどが立たない。建物も

骨組みはあるが中は全て駄目

たが、とても車で行ける状態 から1本入った道を進みまし

ではありませんでした。

泥と

ちょうど業者さんが作業中

が診療室のた

でした。2階

め、ユニット

同じ地区のF歯科医院は、

という状態でした。

ていた。 いた。一瞬仙台空襲で目にし大槌の街が瓦礫に変わって 電柱の先 た。 2階の 況とは別次元の被災であっ これまでの た焼け野原を思い浮かべた。 に畳が引っ掛かっ 壁に倒れ掛かった 津波による災害状 波の高さに言葉を

られてい

が、1階のコ

は無事だった

動くかどうか やボイラー ンプレッサー

失った。

にその場の風を、 テレビで見てはきたが、 を聴いて目にした光景が 臭いを、人 実際

想像を超えた被害の画像を 体に焼きついた。

のかと思って裏に回ってみる 診療所が何とか持ちこたえた 釜石の街では会員の先生 1階部分が大きく剥ぎと

坂

正 毅

東日 大震災

救

援

活

動

報

告

任理事 小野寺

け

い子

活動日誌の形で報告します。 訪問しました。私は3月19-協川久保病院では急遽、 11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。 医 師 日 と 27 看護師 などの医療班を結成 29日の2回にわたり、医療支援を行いまし 大船渡、 陸前高田を 盛岡医療生 た。

3月

回目支援 日:3月19 日(土)

3 月 720日(日)

回 目し支援

日

3 月 27

自用

7時川久保病院を出発し、大7時川久保病院を出発し、大7時川久保病院を出発し、大船渡に向う。職員の日帰りスタッフも含め総勢20人、内訳は医師1、看護師は市役所の指示のもとを援を行っており引き返す。でに国立病院グループが医療でに国立病院グループが医療でに国立病院グループが医療でに国立病院グループが医療でに国立病院グループが医療でに国立病院がより引き返す。私といる。私といる。私といる。私といる。

第 2 日

28日(月)

感想、

1、被災後1週間の時点では、自治体で把握されている避難所には何らかの医療支援が入っていた。一方、個人宅に避難しているが、個人宅に避難しているが、個人宅に避難しているかっと届き始めた状況で、医療の手は全く届いていなかった。とがを心身の疲労から健康をや心身の疲労から健康をや心身の疲労から健康をも出ている。高齢者のの選難所生活で、慢性疾患の避難がもあり、今後はちの方、の医したがの見えない不安をい地域でもあり、今後はちの合併でなく介護支援の合併でなると考えられる。高齢者ののといる。高齢者ののといる。高齢者ののといる。

事

今後の課題など

承常

いて承 11

てのる

で承認 (TPP) 地協定(TPP) a すことに PP) の 経済

会だより

2 月

宿舎に帰_い にとを市に る。

に提案することにすちで計画・実施するが担当し、支援内容の医療支援を医療生の、赤崎漁村セン

3日